

松井家に届いた手紙 ～死を伝える言葉～

江戸時代、人の死はどのような言葉で表現されたのでしょうか？

この展示では、旧八代城主松井家に伝来する古文書を題材に、当時の人々がどのような言葉で哀悼(あいとう)の意を表したのかについて紹介します。

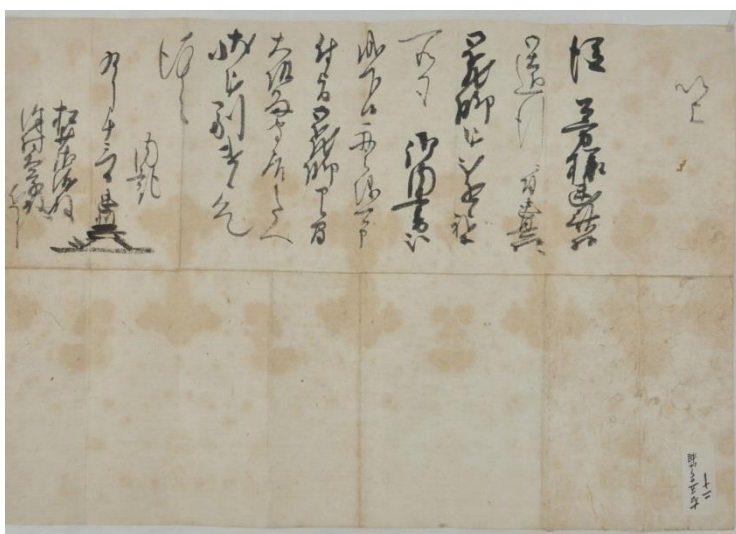
なお、この展示は、博物館実習生（学芸員資格取得を目指す大学生）が、本館学芸員の指導を受けながら、企画したものです。

1 ほそかわただとししよじょう 細川忠利書状 細川幽斎の死を悼む

松井康之・沢村大学宛

江戸時代 慶長 15 年（1610）9 月 13 日

（財）松井文庫所蔵



「御遠行」
って、死ぬ
という意味
なんだよ。

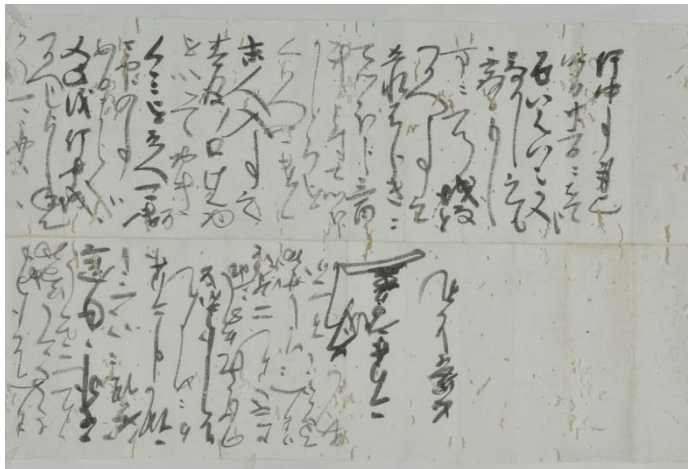


この手紙は、細川家三代忠利が、家老の松井康之と沢村大学に宛てた手紙です。内容は、細川家初代幽斎（忠利の祖父）が亡くなったことに対して、2 代将軍徳川秀忠から細川忠興（忠利の父）と忠利のもとへお悔やみ状が届いたことを伝えるもので、死去という意味で「御遠行」（ごえんこう）という言葉が使われています。細川幽斎は戦国時代に活躍し、細川家の基礎をつくった人物です。その幽斎の死去に対して秀忠がお悔やみ状を出していることは、幽斎が徳川家から特に信頼されていた人物であることを物語っています。

2 細川忠利自筆書状

ほそかわただとし ひつしよじょう

長崎奉行の切腹を伝える



松井興長宛

江戸時代 寛永 11 年(1634)2 月 23 日

(財) 松井文庫所蔵

ただとし
忠利の字って
豪快だね。

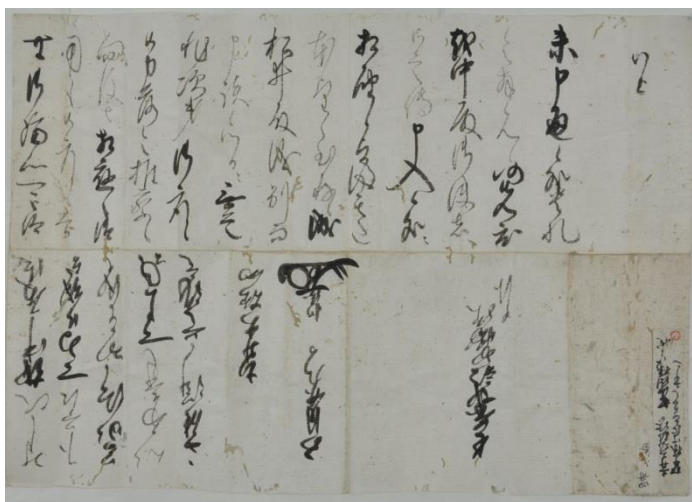


熊本藩主の細川忠利が家老の松井興長に宛てた手紙で、長崎奉行の竹中重義が切腹して果てたことを伝えています。豊後府内（現大分市）藩主の竹中重義は、寛永 6 年（1629）から長崎奉行を兼務していましたが、職務上の不正を訴えられ、寛永 10 年（1633）2 月に罷免され、翌年切腹を命じられました。

3 土井利勝書状

ど い としかつしよじょう

細川家筆頭家老の死を悼む



松井興長宛

江戸時代 慶長 17 年(1612)5 月 29 日

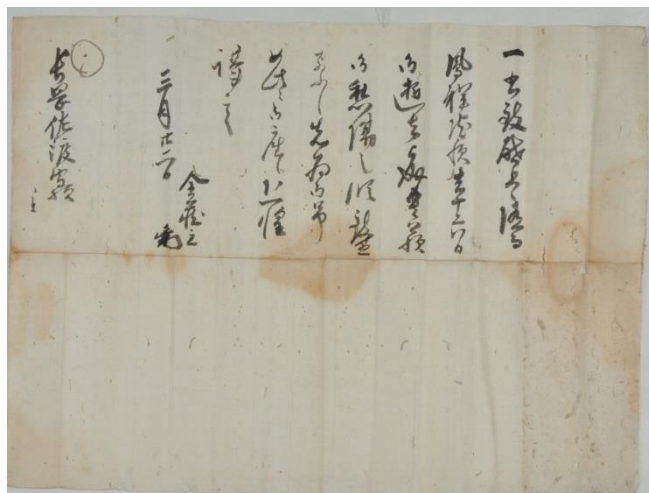
(財) 松井文庫所蔵



宛名の松井興長は、
その後、八代城主に
なったんだよ。

この手紙は、土井利勝が松井興長に宛てたお悔やみ状です。興長の父康之が亡くなったことへのなぐさめの言葉が書かれています。差出人である土井利勝は、徳川家の重臣で江戸幕府の老中をつとめた人物です。亡くなった康之は、松井家初代当主で、細川家の筆頭家老をつとめました。康之は家康からも信用されており、利勝とも親交がありました。

4 ^{こんぞう す しょじょう} 金蔵主書状 お坊さんからののお悔やみ状



松井寄之宛

江戸時代 寛文5年(1665)3月22日

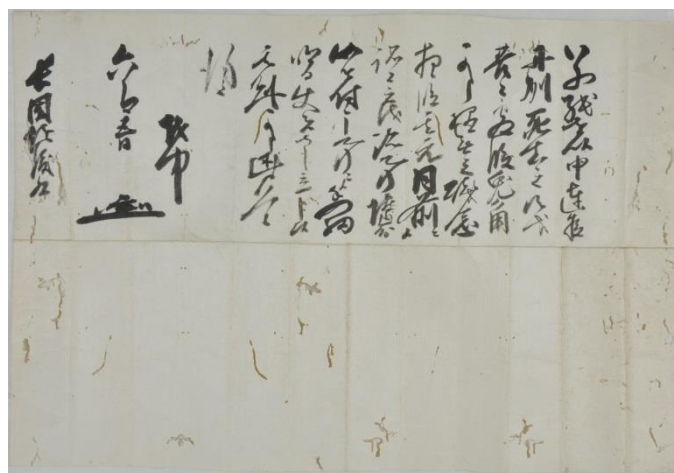
(財) 松井文庫所蔵



^{ごしゅうしやう}
「御愁傷」とは身内を
失った人に対するお悔
やみの言葉だよ。

この手紙は、禅寺（南禅寺か）の僧侶である金蔵主が細川家の家老・松井寄之に宛てたお悔やみ状です。亡くなったのは、寄之の姉である鳳祥院で、「御逝去」、「御愁傷」というお悔やみの言葉が文中に見られます。鳳祥院は京都の公家・烏丸光賢のもとに嫁いでいましたが、3月16日に亡くなりました（享年68歳）。遠く離れた土地に嫁いだ姉の死を悼む寄之に、金蔵主はお悔やみの手紙を差し上げたのです。

5 ^{ほそかわつなとしじ ひつしよじょう} 細川綱利自筆書状 宇土支藩主の死を悼む



松井直之宛

江戸時代 元禄3年(1690)6月5日

(財) 松井文庫所蔵

残された人の
やるせなさが、
伝わってくるね。



この手紙は、熊本藩主の細川綱利が家老の松井直之に宛てたものです。丹後守と呼ばれていた宇土支藩主の細川行孝が死去したことを伝えています。行孝の死を深く悔やんだ綱利は、辛い心情を「苦々しく言葉もない」という一文で表わしています。支藩主が亡くなったことで、次期支藩主の決定や相続問題があるために、細川家の家老である直之に、この手紙を送ったのだと考えられます。ちなみに、手紙の最後に書かれている「長岡佐渡」という名は、松井直之のことです。

6 ひこさんざすしよじょう 英彦山座主書状

津波で亡くなった人の死を悼む



松井當之宛

江戸時代 寛政4年(1792)4月17日

(財) 松井文庫所蔵

この手紙は、英彦山（現在の福岡県添田町）座主が松井當之に宛てたものです。當之は八代城主で、細川家の家老をつとめた人物です。

寛政4年（1792）4月1日に島原で起こった地震により、対岸の肥後の地にも津波が押し寄せ、大勢の人々が犠牲になりました。手紙の中で妙有は、「津波で数千人が溺れて亡くなったと聞き、気の毒に思います」と述べたあと、「あなたの領地（八代）はどうですか？」と尋ねています。英彦山と細川家は以前から関係がありました。妙有が八代を気遣う手紙を送ったのはこのためでしょう。

幸い八代は無事
だったんだよ。

